



『Four Seasons: Spring』での1シーン  
(2013年/ Heliconian Hall/Toronto)

## 表現の形を次々と広げて

茨城県生まれ、東京育ち。7歳から始めたダンスを西田三重子氏のもとでプロの技術に高めて公演活動に励み、充実感を得ながらも、「もっと観客と相互のかかわりを」とマイムの世界にも足を踏み入れた。ヨネヤママコ氏に師事し、出演した舞台の中には伝説的小劇場「渋谷ジャン・ジャン」でのリサイタルもある。

1994年トロントに移住後もサイレント・ストーリー・テラー、マイム/ダンスパフォーマーとしてカナダ全国で公演を行ってきた。近年は彫刻や和紙を使ったミックスメディアの創作にも挑戦している。



のりこさんを含む和紙アーティスト6人の「Washi Sisters」Jによるアートショー(2022年/Propeller Gallery/Toronto)にて、のりこさんが自作の衣装で「The Crane」を演じた。

## 一本当の気持ちで表現

### マイム・ダンス&ビジュアルアーティスト 山本のりこさん

**ふ** のりこさんのマイムのパフォーマンスのビデオからは、動作の緩急にかかわらず、一貫して凝縮した濃密なエネルギーを感じます。どんなことを意図しながら演じていますか？

**山本:** まずご存じの通り、マイムやダンスは言葉を使いませんが、国籍を問わずほとんどの人に理解してもらえると信じています。特に感情の表現は人の心と共鳴できると切に感じます。ですから「本当の気持ちで表現するように」と思っています。「本当」と言うのは、現実には何かあった時の感情や状態ですので、それ自体を表現するのは無理なことです。そのため舞台ではその感情や状態や情景をイメージし、噛み砕いて、自分のイメージの中に入れ、ああでもないこうでもないと言張したり、薄めたりしながら、自分が本当に感じる所を見つけ出して表現しています。言葉にすると何か迷路のようですが、簡単に言いますと頭を使わずに感覚やフィーリングに委ねることが多いです。

**ふ** 何も存在しない空間にのりこさんの演技で次々と何かが生まれてくるのはエキサイティングです。

**山本:** マイムは単なるものまねのように思われがちですが、私としては持てるイメージを最大限に使い、そのイメージの中に観客の方たちに入っていた感じてもらおうととても魅力です。

**ふ** 身体を使った表現から、絵や彫像、和紙作品へも表現の幅を広げていますが、身体表現活動にはどんな変化がありますか？

**山本:** 若い頃は体ばかりが良く動くので心を忘れてしまう事がありました。逆に歳を取りますと心が体の隅々までなかなか届かず、心ばかりが風船のように膨らんでしまいます。すると体との対話に変化が現れます。朽ちてゆく体との対話ですので、労わりや慰めや、時には愛おしさの話題が多くなるように感じます。私にとっては素材でもある体を感じながら動かし、心をニュートラルに保つよう日々心がけています。

**ふ** 3月の公演会場である銀座の奥野ビルはそれ自体が昭和モダンのアートのようなですね。

**山本:** はい。昨年訪日の際にノスタルジックな奥野ビルと出会い、私の日頃の思いと重なって『Fading Memories - 風化する記憶』のアートショーとマイム/ダンスのパフォーマンスの開催を決めました。

ビジュアルアート、マイム、ダンス——無言のアートを通じて日本とカナダで50年以上公の場で表現を続ける山本のりこさん(トロント在住)。彼女が今切実に表現したいこと。その形が『Fading Memories - 風化する記憶』の展示公演にある(2024年3月8日~13日/公演10・11日、会場:東京・銀座)。



『Drawing - 23』

**ふ** 『風化する記憶』というテーマにどんな思いを寄せていますか？

**山本:** 私が経験し、また人から聞いた事の中で、決して忘れてはいけない大切な事がある。それが風化して言葉だけの歴史になる前に、その人たちの心の痛手を、感情を、私の心を通して今告げておかなければと切に思っています。

**ふ** 第2次世界大戦時のカナダの日系人強制収容も今回の演目テーマに入っていますね。

**山本:** 強制収容は、経験者である私の夫(日系3世)

の両親をはじめ、経験者の方たちから聞きかじった話を私なりに膨らませた作品を演じます。これは2017年に強制収容所の75周年記念行事(トロント開催)で演じたものです。300名近くの経験者の方たちが杖をつき、また車椅子でカナダ全国から集まったイベントでした。

**ふ** 展示ではどんな作品が並ぶ予定ですか？

**山本:** トロントでの和紙のアートショーでの受賞をきっかけに、2019年にトロントのアーティスト6人で『Washi Sisters』を結成しました。そのメンバーの作品も少し展示し

ます。クレイ(粘土)で作った彫刻作品も展示します。

\* \* \*

昨年のりこさんは、オンタリオ中央部のハリバートンのイベントで、マイムとダンスによる『The Crane (鶴)』を演じた。公演の翌日、街で一人の女性が近寄ってきて、のりこさんに「昨日は一緒に空を飛びましたよ。ありがとう」と言葉かけた。その言葉に力を得たのりこさんは3月の銀座公演でふたたび『鶴』を、そして昨年他界したマイムの師・ヨネヤママコ氏への追悼の即興ダンスも披露する予定だ。

(取材 平野香利)